

## 名鉄応援団のための 発起人が集結!

そこで、この問題を市民の皆さんに知ってもらい、一緒になって考えていただきたい。そして、「名鉄を存続させるんだ。」という気運を盛り上げるために、19団体の応援団発起人が集まり、発起人会がスタートしました。発起人会は、

- (1) 応援団結団式は、行政(市役所)主導の結団式ではなく、19団体の創意工夫で市民の心を動かしたい。
- (2) 利用促進のアイデアは、市民の皆さんから広く募集したい。
- (3) 蒲郡市民だけではなく、西尾市、吉良町、幡豆町の住民へも波及させたい。



など活発に意見が交わされ、9月26日に蒲郡南駅前広場で開催する「市民まるごと赤い電車(西尾・蒲郡線)応援団結団式」に向けて準備を進めました。

## 市民まるごと赤い電車 応援団結団式



### 結団式開会

当日、会場では、開始前から市内7中学校の生徒と応援団発起人が「市民まるごと赤い電車応援団設立趣意書」などを通りかかる人々に配布し、結団式前から盛り上がりを見せました。開始時刻には、総勢約500人の参加者で広場は埋め尽くされました。

10時30分、総合司会の蒲郡中学校3年の星野実咲さんと形原中学校3年の中澤綾乃さんが元気に開会を宣言。山本喜是応援団長(蒲郡市総代連合会会長)は、19団体の発起人を一人ずつ紹介し、「決意表明する代表者の気持ちをしっかり受け止めていただき、一緒に考えていきましょう。赤い電車を利用しましょう。」と力強く訴えかけました。

### 名鉄の存続を願う熱い決意表明

決意表明では、19団体のうち9人の代表者がそれぞれの思いを力強く述べました。

「高校進学の実績がなくなってしまう」、「一人ひとりが地球の環境にやさしい電車を利用しましょう」、「蒲郡市内を走る赤い電車が大好きで、赤い電車はまちの一部である」、「次世代を担う子どもの将来の可能性をつんではいけない。行政や名鉄の

企業努力だけでなく、私たち一人ひとりの力で利用促進を図りたい」、「小さい子どもたちにとって、電車は将来の夢である」、「高校生活に影響がある。現役高校生として何ができるか真剣に考えたい」など、さまざまな決意表明が行われ、集まった人々はこの決意に共感し、心を動かされました。

### 決意表明

西浦中学校3年 安部竜生くん



名鉄西尾・蒲郡線がなくなってしまうかもしれないということは、受験生にとって非常事態です。もし、この赤い電車がなくなったら、僕たちは、高校進学するのにとても困ります。交通が不便になり、高校へ入学したときに通うのがとても難しくなってしまいます。バスがあったとしても一度に電車のような人数で乗ることができません。となると、市内や近くの高校へいくことが精一杯になってしまい、市外や遠くの高校へ行きたくても行けなくなってしまいます。そうすると進路の選択肢が減ってしまいます。

また、蒲郡市の毎年の行事に参加するためこの赤い電車を使って蒲郡駅にくるお年寄りや家族連れ、小中学生や高校生はたくさんいると思います。この赤い電車があるからこそ蒲郡市の行事は盛り上がると思います。僕は今日のこの結団式にも赤い電車を利用して来ました。

これからの蒲郡市の活性化と発展や僕たち子どもたちの将来のためにこの赤い電車は絶対必要な存在です。だから僕は蒲郡市を愛する一市民として、この赤い電車を今後もずっと残して欲しいと思います。